

鈴田の風



大村市立鈴田小学校 学校だより
令和6年度第14号(R6.10.30)
文責：校長 牛嶋 理孝

「この1行に逢いにきた」 読書週間がスタートしました

日増しに秋の深まりを感じます。暑くもなく、寒くもなく、たいへん過ごしやすい季節となりました。

さて、10月27日から11月9日は読書週間です。今年の標語は「この1行に逢いにきた」。期間中は全国各地で様々な催しが行われます。本校においても、期間を11月25日までに延長して、読書ビンゴや読書クイズ等、子供たちの読書に対する関心を高めることができるような取組が計画されています。

自分自身を振り返ってみると、小学生時代はマンガばかり読んでいました。がきデカに夢中でした。中学生になっても同じでした。

高校2年生のとき、怪我をして入院しました。そのとき、お見舞いに来てくださった知人の方から、夏目漱石の「草枕」をいただきました。退屈で、他にすることもなかったので、活字ばかりのその本を読んでみました。

「智に働けば角が立つ。

情に棹させば流される。

意地を通せば窮屈だ。

とかくに人の世は住みにくい。」

冒頭の一節に、たいへん心をひきつけられました。多彩な語彙に加え、技巧を凝らした表現のため、意味が理解できない部分も多々ありましたが、いつの間にか最後まで読んでいました。そして、読後にはマンガでは味わったことのない達成感と、心地よい疲労感がありました。その後は漱石をはじめ、いわゆる文学作品と呼ばれるものを好んで読むようになりました。

読書は多面的な考え方を、わたしたちに教えてくれます。もっと早い時期から、読書に親しんでおけばよかったとつくづく思います。

心の成長が著しい子供たちは、良書から感化されるメリットが必ずあるはず。映像文化に偏ることなく、本に親しむ子供が増え、「読書週間」が「読書習慣」につながることを期待しています。

豊作を喜ぶ！

5年生が稲刈りを体験しました

5年生が、6月の田植えに続いて、学校評議員の■■■■様の御指導のもと、稲刈りを体験しました。

初めての体験で、最初は戸惑っていた子供たちですが、徐々にコツをつかみ、無事に収穫を終えることができました。

自分たちが植えた苗の稲刈りを体験することを通して、地域への愛着や、自分たちが日常食べているお米への関心、鈴田の産業である農業への理解を深めていきます。



鈴体祭(校内陸上記録会)

全力で取り組みました！

荒天のため中止となった、第75回大村市小学校体育祭。この日のために練習を重ねてきた6年生のことを思うと、心苦しく残念でなりません。何とか子供たちが練習の成果を発揮する場を設定したいと考え、10月29日、鈴体祭(校内陸上記録会)を開催しました。

小体祭と比較すると、ささやかではありましたが、一人一人の競技に対する一生懸命な姿や、級友からの声援がたいへん印象的な大会となりました。やってよかったと心底思いました。

